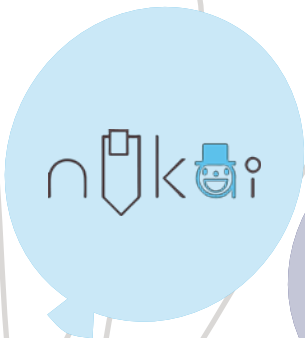


2020  
年度

# 活動報告書

千葉大学 総合学生支援センター『ふれあいの環』





国際未来教育基幹キャビネット 学生支援センター長

## 下永田 修二

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、新たな生活様式が求められるなか、年度末を迎えることとなりました。ふれあいの環の活動も例年と同じような活動ができない状況となり、学生のみなさんは、たいへん苦慮したことと思います。そのような中、学生の皆さんは、今できることを考え、先を見据えた活動を行って来ていました。活動を振り返ると、研修を行い、活動の意義から具体的な活動方法まで検討し、この時期であるからこそできる学びも多くあったことと思います。また、年度後半では、対面で行う活動とメディアでの活動を融合させた活動もみられ、新たな活動も芽生えてきたことにひとつの歩みを実感しました。

今後も対策を伴った活動が求められることにはなりますが、この時期であるからこそ、学生同士で話し合い、活動ができる機会が重要になってくると感じています。この活動を教職員の皆さんとともに考え、支え、実施していけるよう、今後も取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、この1年間、ふれあいの環の活動を支えていただきました皆様に心より感謝申し上げます。

ふれあいの環 会長

## 成川 貴大

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりすべての活動が中止、または、オンラインでの実施へと変更を余儀なくされました。

オンラインでの活動へと気持ちは切り替えられたものの、オンラインイベントに需要はあるのだろうか、画面越しの活動は盛り上がるのだろうか、など悩み、超えなければならぬ多くの壁にぶつかりました。それだけではなく、「大学生」であるというだけで、多くの厳しい意見にさらされました。その圧力から、実家に帰れずに年末年始をひとりで過ごすという学生も多くいました。突然始まったオンライン授業についていくことも簡単なことではありませんでした。「大学生」にとって、思い出したくない厳しい1年となったことでしょう。

そんな中ふれあいの環では、「大学生による学生支援」という理念に基づき、「大学生を孤立させないための活動」を中心に活動を行いました。顧問の先生、教職員の皆様をはじめとする多くの方に支えられ、粘り強く活動できたことをありがたく、そして嬉しく思います。最後まで見ていただければ幸いです。

# ふれあいの環とは

「ふれあいの環」は、学生による学生支援活動(ピアサポート)やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動を展開しています。

学生と学生、学生と教職員が相互にふれあいながら、イベントなどを通じて総合的な人間力を涵養することを目的に設立されました。

「ふれあいの環」では活動趣旨の違う6つの団体が活動しています。



# 6団体合同オンライン説明会

日程 2020年6月19日 参加者 学生17名 教職員2名

ふれあいの環主催で「6団体合同オンライン説明会」を行った。例年は入学式に合わせて4月初旬に対面で行なっていたが、今年度はオンライン上での課外活動の再開に合わせて、6月中旬に開催した。このイベントは主に新入生を対象としており、ふれあいの環の活動を知ってもらうこと、ピアサポート活動に興味を持ってもらうことを目的としている。

団体ごとに時間を設け、パワーポイントによる活動紹介を行った。また、参加できなかった学生に向けて、各団体の活動紹介を動画として保存し、いつでも再生できるようにオンラインならではの工夫を施した。

対面での課外活動ができないという厳しい状況ではあったが、今年度も新入生を迎え入れることができた。



ふれあいの環

# カタリベカフェ

日程 2020年5月2日、8月8日、8月9日、10月31日

参加者 各回学生10名程度

「カタリベカフェ」とは、GCAPが不定期で行っているイベントで、一つのテーマについて参加者が自由に語り合う企画である。例年はお菓子や飲み物を片手に学内で行っていたが、今年度は全ての回でオンライン上での実施となった。

5月2日には、career port主催のイベントである「哲学対話」と、10月31日には、C-vol主催のイベントである「ボランティア報告会」と合同開催した。テーマはそれぞれ、「思いやりとは?」「ボランティアとは?」であった。他の団体とイベントを企画したことで、カタリベカフェの改善点を発見することができ、新たな活動に対する期待が高まった。

各回とも、学生間の交流が減っていた中でのイベントであったこともあり、生き生きと話している様子が見受けられた。





# 月刊キャリアポ

日程 月1回 参加者 各回10名程度

「月刊キャリアポ」とは、career portが今年度から行っているイベントで、ディスカッションを通じて他人の価値観に触れ、自分の価値観や考え方を見つめ直すことを目的としている。ディスカッションの議題は毎月異なり、ビジネスコンテストについてや、難民問題、自己投資のススメなど、多岐に渡っている。

9月30日にはC-volをゲストに招き、「この状況で私たちができるボランティア活動とは何か？」という議題で活発に意見を交換した。また、C-volのメンバーがこれまでに行ってきたボランティア活動の発表を行い、ボランティアに対する知識を深めた。



# ボランティア報告会

日程 2020年10月31日 参加者 学生12名 教職員1名

「ボランティア報告会」は、参加したボランティアの内容や活動を通して感じたことを発信するイベントである。ボランティアに興味のある学生を対象とし、経験者の体験談を聞いてボランティアへの意欲を高めてもらうこと、未経験者がボランティアに対する不安を解消することを主な目的としている。

今年度は、C-volの学生がボランティア活動の報告を行った。内容は、千葉市少年自然の家での家族キャンプ「マンスリーウィークエンド」について、昨年度行った千葉県鋸南町での災害ボランティアについて、であった。報告の後は、GCAPの協力の下「カタリベカフェ」を実施し、ボランティアの意義や役割について理解と考えを深めた。(使用資料 p10)



# ノートテイク練習会

日程 週1回 参加者 各回学生10名程度

ノートテイク会の活動は、主に聴覚障害を持つ学生への情報保障、練習会、研修会で構成されている。その中でも特に力を入れているのは「ノートテイク練習会」である。情報保障の質を落とさないよう、学生のスキルアップを目的に、週に一度開催している。講義の資料などを用いて実際の授業に近い雰囲気を作り、専門用語を聞き取る練習を行っている。

今年度は、対面での活動を行う事ができなかったため、ノートテイク会の学生がオリジナルのツール(NT tool)を新たに製作した。これを用いることで、オンライン上でもノートテイクの練習が円滑に行えるようになった。



# ファシリテーター研修会

日程 2020年11月11日 参加者 学生11名

GCAPが、ふれあいの環に所属している学生に向けて「ファシリテーター研修会」を実施した。「ファシリテーター」とは、あくまで中立的な立場で会議などの適切なサポートを行う人のことを指す。「ファシリテーター研修会」では、ファシリテーターとしての役割や技術などを学び、会議やミーティングを円滑に行うコツを身につけることを目的としている。

研修では、GCAPのメンバーを講師として座学を行った後、一人ずつファシリテーターとなって実践練習を行った。座学では、会話の動かし方や、目の配り方など、ファシリテーターとして必要なスキルについて学んだ。実践練習では、「タイムトラベル」を題材として模擬ミーティングを行い、最後にGCAPのメンバーがフィードバックをした。その後、座学で学んだことを実際にどのように生かすのかや、会話の中でのファシリテーターの立ち振る舞い方などについて考えを深めた。(使用資料 p11)



# Universal Festival ~過去から未来へつなげるUF~

日程 2020年12月10日 参加者 学生20名程度

Universal Festival(以下UF)とは、CISGが年に2回開催している、千葉大学に在籍する留学生たちが自国の歴史・文化などについて発表するイベントである。学内外問わず多くの方々の国際理解を深めることを目的としている。今年度は、1回のみで開催となった。

57回目にして初めてのオンライン開催となった今回のUFでは、千葉大学への留学経験があるアメリカ・メキシコ・イタリアの留学生の発表に加え、CISGのメンバーによるUFの歴史に関する発表も行われた。動画による発表という形式をとったため、留学生が撮った映像は現地ならではの魅力に溢れていた。

海外渡航が制限され、留学生がほとんど日本にいない状況であったが、UFの開催を途切れさせることなく、次年度へ繋ぐことができた。



## 年賀状企画

日程 2021年1月上旬 参加者 学生22名

日頃からお世話になっている教員・職員の方々に向け、年賀状を製作した。

挨拶や感謝の文の記載に加え、「今年叶えたい夢」というお題を設定し、学生の回答を集めて掲載。教員・職員の方々に学生の新たな一面を知っていただき、学生にとっても良い目標設定のきっかけとなった。また今年度は、10月に入会した新入生と上級生がお互いの顔と名前を認識できる良い機会となった。

完成したものは、教員・職員の方々を直接訪ねて手渡しした。学生同士も繋がりを深めることができた。



ふれあいの環



# 感染症 予防啓発活動

日程 2021年1月、2月 参加者 学生5名程度 教職員3名

総合学生支援センター内、アクティブラーニングゾーン(学生が自由に利用できる学習スペース)において、利用する学生が社会的距離を保つことができるよう、座席のレイアウト変更、また学生が感染症予防に対する意識を高められるよう、予防啓発ポスターの作成・掲示を行った。

少しずつ大学構内での対面授業などが再開し、「新しい生活様式」に対応したキャンパスライフが求められる中で、キャンパスを訪れるすべての学生が、感染症の対策を行いながら安心して充実した学生生活が過ごせるよう、学生支援課の職員の方々と協力しながら、学生ならではの視点で学生の学習環境を整備する事ができた。



ふれあいの環

# 卒業式

日程 2021年3月23日 参加者 学生5名 教職員1名

桜咲く3月、千葉ポートアリーナにて卒業式が開催された。初のオンライン配信を行うなど新たな試みを取り入れながらの敢行となった。晴れ着に身を包み、新たな門出を前に学友と一堂に会する機会を持てたことで卒業生は学生生活を振り返ることができたことだろう。ノートテイク会は前方に設置されたスクリーンを利用したの字幕通訳という形の情報保障を行った。



卒業生にとってはノートテイク会としての最後の仕事であり、在学生にとってはお世話になった先輩方とテイクをする最後の機会となった。





# CCSC (ちばシティサバイバルキャンプ)

日程 2020年後期

参加者 学生15名程度 教職員2名

千葉市内の小学生を対象にしたイベント、「CCSC(ちばシティサバイバルキャンプ)」を開催した。CCSCは、災害時に役立つ知識を、体験プログラムを通して楽しく学ぶことを目的としたイベントである。

今年度は、防災絵本の作成、小学生向けの防災の講習動画の作成などを行った。

学生自身も活動を通し、防災についての知識を深め、より防災意識を高めることができた。



## (1) 防災トイレの組み立て体験

大学内に設置されている防災トイレの組み立てを体験した。防災トイレは、平常時はベンチとして設置されているものの、災害時には簡易トイレとして使用することができる設備であり、千葉市内でも千葉大学含め、避難所などへの設置が進められている。

## (2) 防災絵本の作成

家庭内での災害に対する備えについて、学生自ら手作りの絵本や動画を作成した。親しみやすいイラストの作成や、絵本の読み上げなどの工夫を行い、災害時本当に必要なものは何かなど、小学生の防災に対する意識を高めることに繋がった。



## (3) 救急法 講習動画の作成

倒れている人を発見したとき、救急車が到着するまで何をすべきか、全体の流れや胸骨圧迫のポイントなど、イラストなどを用いながら動画を作成した。



# ボランティア報告会 使用資料

## 災害ボランティア

～千葉県を襲った台風15号～

工学部 2年 阿部帆花

### 令和元年台風15号

#### ■基本データ

発生日時：令和元年9月5日発生  
9月9日関東上陸  
最大瞬間風速：東京都神津島 58.1 m/s  
千葉県千葉市 57.5 m/s



#### ■被害データ

人的被害：死者・行方不明者 0名  
重傷者 7名  
住宅被害：全壊 247棟  
半壊 2,407棟  
一部損壊 43,391棟  
\* 千葉県防災危機管理課 10/24  
16:00発表情報

停電情報：千葉県全域  
9/10 12:30 約570,400軒  
9/15 16:00 約131,400軒  
\* 9/25 11:00時点で停電0軒  
断水情報：  
9/10 12:30 計 80,083戸  
9/15 16:00 計 20,159  
9/25 16:00時点で断水0戸

#### 災害ボランティアセンターでの活動

ボランティアセンターでは、被害状況の調査や作業依頼の受付、ボランティアの斡旋や取材の対応など、多岐にわたる業務を行っています。人手が足りないため、センターの運営にもボランティアを要している状況です。



センター運営のボランティアでは、ボランティアに来た人の受付や、各種問い合わせの電話対応、車の誘導などを主に担当しました。

#### 民家でのボランティア ①



屋根の瓦が落ち、さらに大きな音響が飛ばされてきた民家での活動。重い中瓦を扱い、荷役を担うのはかなりの重労働でした。センターの問い合わせでも屋根の被害に関するものが大半です。



#### 民家でのボランティア ②



住宅の二階から、吹き込んだ雨に濡れて使えなくなった家具や畳を搬出しました。地域には高齢の方も多く、こういった作業を自力で行うのは難しいのが現状です。



#### 瓦礫集積場

運び出した家具や畳は、トラックに載せて瓦礫集積場に運びます。



集積所では瓦・不燃物・可燃物・金属など、瓦礫や廃棄物を分別して集めています。分別された瓦礫はそれぞれが山のように積まれており、今回の台風による被害がどれだけ大きかったのかが感じられます。

#### 総南町ボランティアセンターから

～HPより抜粋～

《音場》これまで4500人を起えるボランティアの登録にご協力いただき、82件の災害ごみの片づけや運搬といった一般ボランティアの依頼に対応してまいりました。

現地で活動いただいたボランティアの皆様をはじめ、運営スタッフ・資機材や支援物資、駐車場の提供、運営支援金の寄付など、様々な形でご支援、ご協力をいただきました全ての皆様にも厚くお礼申し上げます。

総南町ボランティアセンター開設  
9月9日 台風15号関東上陸  
9月13日 開設  
9月14日 ボランティア派遣開始  
10月12日 台風19号関東上陸  
10月22日 閉所



Chiba university  
Volunteer  
Student  
Staff

# ファシリテーター研修会 使用資料



学生コミュニティ支援団体 GCAP

## ファシリテーター研修会

「例会とは、ホレーでいえるは素材を引き立てるスペースではなく  
素材を入れるための例である。」

## ファシリテーターのイメージ

一般的にいえば...

- ▶ 本来の意味は促進者
- ▶ 物事を決める会議で話を促進させる
- ▶ 本人は意見を言わず、中立的な立場

## ファシリテーターのイメージ

### ピアにおける意味

- ▶ テーブル内の調整役
- ▶ 話を振って話す量の調節
- ▶ 話が途切れた時には積極的  
にテーマを提供する
- ▶ 外部の人に気を配る

## 基本的になにするの？

- ▶ ホスピタリティチェックシートを見よう  
みんながやるべきことが書かれている
- ▶ 「気配り」と「おもてなし」  
緊張したり、入りにくいとかみまわず
- ▶ 「積極」の姿勢  
話をよく聞いて、そこから質問につなげる

私もファシリテーターになろう！

## 事前準備 カタリベ企画編

- ▶ テーマ決めの後に、話の小テーマを考える  
小テーマはあくまで話の切り口として用意  
話がテーマを越えずにみんなが話しているなら不干渉  
ワークショップで試作中・・・
- ▶ ファシリテーター同士の連絡  
どんなテーマが話しやすく、共通の話題だろう？  
⇒意識をピア内で共有できるとなおよし！！

## 事前準備2 カタリベ実施編

- ▶ アイスブレイクを考える  
自己紹介で打ち解ける空気づくり、話易い導入  
まず一言話すと次から話しやすくなる。  
⇒自己紹介+ひとことのお題には？
- ▶ 話のはじめ方を考える  
どのテーマから始めると話しやすいだろうか？  
⇒小テーマをいかに絡めているか

## ファシリテーター中・・・

- ▶ 話を聞くか話してない人も見る  
特定の人だけで盛り上がりすぎないように話を振る  
話をまとめて、誰かにつなげる、など。
- ▶ カタリベのルールの遵守  
カタリベのNGに触れていないかチェック  
例：相手の批判 水掛け論 決めつけ・・・など



学生コミュニティ支援団体 GCAP



# 6団体 代表挨拶

学生ボランティア支援団体 C-vol 代表

## 石井 和

2020年度は新型コロナウイルスの影響で人と直接関わるような活動を行うことができませんでしたが、例年の活動を見直し、今の状況で自分たちにできる活動を検討してきました。その結果、コロナ禍で失われつつあったボランティアへの関心を取り戻してもらうために、ボランティア報告会をオンラインで開催する、といったように時代に即した活動を目指しました。

今後も学生ボランティア活動支援団体としての責任をどう果たしていくか、自ら考え実行していきたいと思っております。



学生コミュニティ支援団体 GCAP 代表

## 山本 憩門

2020年度、GCAPではカタリベカフェという学生交流イベントを企画運営し、学生間のコミュニティ形成に資するべく活動して参りました。今年度は対面形式での実施に代替してオンライン形式で実施致しました。今年度における活動の教訓として、対面形式に依存しないイベントの実施可能性が詳らかとなりました。今後は実施形式を臨機応変に選択しながら、多様なテーマのカタリベカフェを開催し、学生間の交流の場を連綿として提供していきたいと考えております。

結びに、関係者の皆様に感謝の意と、今後のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。



チャレンジドサポートみのり 代表

## 原崎 瑠也

2020年度はコロナウイルスの大流行により、多くの人々が自宅での学習活動を余儀なくされました。そんな中、移動支援を主とするチャレンジドサポートみのりでは、今後の活動においてどのような形で学生を支援するかという大きな課題が浮かび上がりました。

これからもオンライン化が進むと考えられますが、実験や実習など、対面で実施される活動も少なからずあると思います。支援を必要とする学生が、気兼ねなく実習・実験の移動支援を求められる、そのような体制を模索していきたいと考えています。





ノートテイク会 会長

## 阿部 帆花

私たちは聴覚障害を持つ学生への情報保障をしていますが、一口に「聴覚障害」と言っても、聞こえ方も、求める情報保障の形も学生によって様々です。

世界を揺るがす感染症の影響で私達の生活は一変し、学生の学びの場は大学から自宅へと変化しました。支援の方法も授業形態の変化に適応していきましたが、その本質は変わりません。

これからも学生一人一人に寄り添った支援を目指してノートテイク会一同努力して参ります。



学生キャリア支援団体 career port 代表

## 泉 夏帆

私たちは、学生生活をより充実させるため、次の2つの目的のもとに活動しています。1つ目は、就活生に限らず、全ての千葉大生に自己のキャリアや人生、価値観について考える機会を提供する事です。2つ目は、社会に出た際に必要なコミュニケーションやプレゼンテーションなどの能力を鍛える事です。具体的には、ビジネスコンテストへの参加、朝の時間を有効活用できるような活動、「学子力」について考え、話し合う会などを行っています。

今後は社会人との交流の場も設けるなど、更に千葉大生にとって有益なキャリア支援ができるように活動していきます。



CISG (国際学生会) 代表

## 齋藤 涼太

私たちは、留学生の学生生活や日本語力向上の支援を行う団体です。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、来日できる留学生の数は制限されていましたが、オンライン等の活動を通して留学生とのつながりを継続することができました。また、年2回開催する「ユニバーサルフェスティバル」と呼ばれる、留学生自身が日本語で自国の文化等を紹介するイベントも昨年に引き続きオンラインで実施する予定です。

こうした活動を通じて、今後も留学生の気持ちの拠り所になるような団体でありたいと思います。





千葉大学学生支援課